

よくある質問（FAQs） 早稲田大学高等研究所 2024 年度研究者公募

■応募資格について

＜年齢＞

Q:対象年齢は何歳ぐらいですか。40 歳以上でも応募可能ですか。

A:年齢制限はありませんが、過去の採用実績では 20 代～30 代の方の割合が多いです。

＜研究分野＞

Q:どのような研究分野でも応募できますか。

A:研究分野は特に限定していません。ただし、応募フォームにて、ご自身の研究分野を自然科学、社会科学、人文科学からご選択ください。（重複して選択することはできません。）

＜嘱任資格＞

Q:応募前に、これまでの研究経歴が高等研究所研究者としてふさわしいか教えてください。

A:高等研究所研究者としてふさわしいか否かは、提出いただいた書類をもとに判断します。
応募者自身の判断でご応募ください。

Q:応募条件に「b. 着任までに、博士の学位を取得見込み済みの者。※但し、着任までに博士学位を取得できる事を着任日の 1 か月前までに文書で明示できない場合は採用を取り消します。」とありますが、博士学位を取得できることを明示する文書とは具体的にはどのような書類ですか。

A:博士学位審査にて学位授与が決定した旨を記した主査、副査または指導教員の署名入り文書をご提出ください。

Q:早稲田大学が取り組んでいる研究・教育にはどのようなものがありますか。

A:募集要項の「6. 早稲田大学が取り組む重点的な研究分野・テーマ」をご覧ください。本学は、7つの[スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）](#)モデル拠点および生命科学、データ科学分野、カーボンニュートラル関連研究への取り組みを強化します。各拠点、分野の取り組みについては以下のリンクをご参照ください。

[国際日本学](#)、[実証政治経済学](#)、[健康スポーツ科学](#)、[ICT・ロボット工学](#)、
[数物系科学](#)、[ナノ・エネルギー](#)、[グローバルアジア研究](#)、
[生命科学](#)、[データ科学](#)、[カーボンニュートラル関連研究](#)

■応募フォーム・応募書類について

応募される場合は、応募フォームへの入力と、フォーム画面より応募書類（履歴書/研究計画書）を添付していただくことが必要です。この FAQs や「応募フォームの説明」をご確認のうえ、ご応募ください。

＜業績（学会報告数）＞

Q:学会の発表者ではないが、共同研究者であった場合は回数に加えますか。

A:分野により事情は異なるかと思いますが、基本的にはご自身が発表したもののみに加えてください。

Q:日本国内で開催された国際会議や国際研究集会において英語で講演した発表は、学会報告数(国内)と(海外)のいずれに含めればよいですか。

A:国際会議の場合は(海外)に含めてください。

＜レファレンス＞

Q:応募フォーム内のレファレンス(意見を聞くことのできる研究者)は必ず2名記入しなければなりませんか。

A:レファレンスは必ず2名ご記入ください。

Q:日本国外在住の研究者をレファレンス先にしてもよいですか。

A:日本国外在住や外国籍研究者をレファレンス先としていただいても構いません。

＜応募書類の様式＞

Q:所定の様式ではなく、それ以外の様式で作成した書類の提出は可能ですか。

A:審査に必要な項目を記載していますので、必ず所定の様式をご利用ください。

＜使用言語＞

Q:応募書類を日本語・英語以外の言語を使用して記入することは可能ですか。

A:応募書類は日本語か英語でご記入ください。

＜応募書類＞

「履歴書」

Q:応募書類の「履歴書」のページ数を増やすことは可能ですか。

A:可能です。欄が不足する場合は、適宜行を追加のうえ記入してください。

「研究計画書」

Q:応募書類の「研究計画書」(1頁から6頁)のページ数を増やすことは可能ですか。

A:可能ですが、表紙と履歴書を除き、計8頁(和文様式)または計9頁(英文様式)に収まるようにしてください。

Q:研究計画書の「3. 国内外の研究機関および早稲田大学の研究者との連携状況と計画」に「今後構築が期待されるネットワーク(共同研究者、研究機関等)」とありますが、協力を希望する研究者に事前に了承を得ておく必要はありますか。

A:応募者自身でのご判断をお願いします。

Q:「4. 著書、論文、国際会議、国内学会 等」について、まだ刊行されていない論文を業績欄に記入してもよいですか。

A:掲載が決定している場合は、刊行予定であることがわかるようにご記入ください。

＜応募書類の提出＞

Q: 応募書類を直接持参してもよいですか。

A: 応募フォーム以外の方法による提出は受け付けません。

Q: 応募書類とは別に、推薦書を提出したいのですが可能でしょうか。

A: 第1次選考にあたっては、募集要項で求められている書類以外の提出は不要です。

＜提出書類の差し替え・修正＞

Q: 応募フォームで提出した応募書類に誤りを見つけました。差し替えは可能でしょうか。

A: 応募フォームに再度すべての情報を入力し、最初に登録した暗証番号を入力することで、登録内容の変更が可能です。ただし、登録変更は応募期間内に限ります。応募期限後は、登録内容の変更および応募書類の差し替えはできません。

Q: 応募フォームの暗証番号を忘れてしまい、登録内容の変更ができません。どのようにすればよいでしょうか。

A: 暗証番号の再発行はしていません。お問い合わせフォームより、「応募番号」「氏名」を明記のうえ、ご連絡ください。

＜応募期限＞

Q: 応募期限を過ぎていますが、応募書類を受け付けてもらえますか。

A: 受け付けることはできません。

■第2次選考(書類審査)について

＜主要な研究業績＞

Q: 主要な研究業績3点以内(各3部)は、コピーで提出してもよいですか。

A: コピーで結構です。主要な研究業績が書籍の場合は現物を3部お送りください。

Q: 主要な研究業績として提出できる論文は、日本語・英語に限りますか。

A: 日本語・英語以外の論文も提出可能ですが、その場合は日本語か英語の要約を併せてご提出ください。

Q: 主要な研究業績に博士論文を含めてもよいですか。

A: ご自身が主要な業績であると判断される場合は、含めていただいても構いません。

＜推薦書＞

Q: 推薦書の言語の指定はありますか。

A: 日本語あるいは英語をお願いします。

■第3次選考(面接試験)について

＜使用言語＞

Q: 英語で面接を実施していただくことは可能ですか。

A: 可能ですが、応募者が高い日本語能力を有する場合は日本語でお願いすることがあります。事前に高等研究所事務局にご確認ください。

＜実施場所＞

Q: 現在海外に在住していますが、面接は必ず日本での実施となりますか。

A: 原則として早稲田大学にお越しいただいたの面接となりますが、難しい場合は個別に相談に応じます。

■着任後の待遇について

＜給与＞

Q: 本学規程とありますが、具体的な給与金額について教えてください。

A: 給与は資格と年齢により異なります。以下の年収例(税込)をご参照ください。

■講師(任期付): 30 歳 約 500 万円、35 歳 約 640 万円

■准教授(任期付): 40 歳 約 780 万円

＜手当＞

Q: 社会保険加入や各種手当(扶養手当、住居手当、通勤手当)はありますか。

A: 厚生年金、健康保険、労災保険、雇用保険へ加入します。通勤費は支給されますが、扶養手当、住居手当は支給されません。

＜研究場所＞

Q: 研究スペースは用意されますか。

A: 各研究者に居室が提供されます。

Q: 実験スペースや器具・装置を置く必要がありますが、どうしたらよいですか。

A: 高等研究所には居室以外の研究スペース、実験設備はありません。そのため、ご自身が獲得する研究費(間接経費や受託研究費など)で、早稲田大学内の研究スペースを賃借(金額についての詳細はお問い合わせください)していただく必要がございます。あるいは、ご自身で関連学科や学内研究者と連携・協働していただき、早稲田大学内の各実験施設を利用することもできます。また、本学には研究用共通ラボや共通実験室の利用サポートセンターがございます。詳しくは下記サイトをご参照ください。

[早稲田大学理工学術院リサーチサポートセンター] <http://www.sci.waseda.ac.jp/rsc/>

＜研究費＞

Q: 大学からの研究費のサポートはありますか。

A: 個人研究費が支給されます(212,000 円)。その他の補助として、複写補助(3,000 円)、学会出張補助費(90,000 円)、海外学会出張補助費(110,000 円)、学術論文に係る補助制度等があります。また、学内には特定課題研究助成制度(競争型)、国際共同研究推進のための派遣・招聘費補助制度があります(以上、2022 年度実績額)。

<RA>

Q: 大学院生等が RA として配属されますか。

A: 配属されません。ご自身が獲得された研究費で、研究資金交付元ルールや学内規程に則り、RA やアルバイト等を雇用することは可能です。

<授業担当>

Q: 授業を担当することはありますか。

A: 教育経験はキャリア構築の上で重要なので、一定範囲内で授業を担当していただきます。

Q: 担当授業の使用言語は、日本語以外でも可能ですか。

A: 英語による授業を実施している学部、学科もあります。

<研究活動>

Q: 海外機関に滞在して研究することは可能ですか。

A: 任期中は当研究所において研究に専念していただくことが本務となっています。

ただし、研究者の研究活動上、必要に応じて海外で研究を行うことは認めています。

これまでの実績としては、おおむね1ヵ月～3ヵ月の長期海外出張をしたケースがあります。

<テニユア>

Q: テニユア(専任)職への登用はありますか。

A: テニユア職への登用制度はありません。

■その他

Q: 電話で問い合わせをしたいのですが。

A: 電話での問い合わせにはお答えしかねます。高等研究所ホームページ上の「問い合わせフォーム」からお問合せください。なお、例年多くの方より問い合わせがあるため、回答に多少お時間をいただくことがあります。

以上